

『風は南から』

令和5年度 校長室便り
(11月15日)(第16号)



人さえいればバリアフリー

商業科1・2年生対象の講演会の講師を務めた車椅子トラベラーの三代(みよ)達也さんは、障害者にとって生活を行う上で壁となるのは、物理的な障害(環境)と人の心だとおっしゃいました。世界30カ国訪問した中で、世界一好きな国はタイ。タイは、道路や建物など環境面で言えば劣悪そのもの、でも困っている三代さんを見ず知らずの人々がどこからともなく現れて助けてくれたそうです。また、その状況は沖永良部島でも同じで、役場の入口にいた三代さんに、通りがかりの女性が、何か困ったことがあるのかと尋ねてきたそうです。論語の中で、孔子の弟子の子貢(しこう)は、孔子に一生守っておくべきものは何かと尋ねた時に、孔子は「恕かな」と答えています。「恕(じょ)」とは相手を思いやる心です。三代さんは、そんな思いやりの心であふれる沖永良部島で暮らしていることを誇りに思い、人との出会いを大切にしてくださいとおっしゃっていました。

電動バイクの共同開発



沖高生、知名町、ヤマハ発動機が共同で開発した電動バイクの「E LOVE」が、東京ビッグサイトで行われた「Japan Mobility Show」でお披露目されました。その中で、3年3組の泉琉香さん、藤田愛さん、松下美波さんの3人が、会場に立ち、説明役を担いました。

これまで意見交換を重ねて、普段は風よけで停車中は絵を描くスケッチブックとして使える可動式シールドや、頭からかぶり着用しやすい雨具と、それを収めるポケットを提案したそうです。また、車体のカラーや雨に濡れるとユリの花が車体に浮かぶ工夫にも彼女たちのアイデアが含まれているそうです(詳しくは、知名町HPをご覧ください)。泉さんは「夢が形になっていく過程で、声に出すことの大切さを学びました」、藤田さんは「夢はあきらめないで努力し続ければ、実現することを学びました」、松下さんは、「この活動を通して、町や企業が脱炭素化に向けていかに努力しているのを知り、この経験を伝えることで、周りの人の意識を変えていきたい」と話してくれました。

「1年2組 音楽 琴の発表会」



11月8日(水)6限目、1年2組の音楽の授業にお邪魔しました。5回の琴の授業の4回目、最後の評価の前に、同じクラスの書道選択者の前で腕前を披露することになっていました。

音楽選択者が、2班に分かれて「さくら変奏曲」を弾いてくれました。授業の中だけで、1曲弾けるレベルまでなれることに驚きましたし、羨ましくも思いました。その後、書道選択の生徒と一緒に少し弾かせてもらいました。新鮮な体験でした。

11月7日 絵本の読み聞かせ



近年、図書委員会の活動として、図書委員が小学校に出向いて絵本の読み聞かせを行っています。昨年度は、知名町・和泊町のそれぞれ1校を訪問しましたが、今年はぜひ母校を訪問したいという委員の希望もあり、国頭小、和泊小、下平川小、知名小へ行く予定です。10月31日にすでに国頭小への訪問は終了し、11月7日(火)和泊小の訪問に同行しました。

1年生が、教室の真ん中で体育座りで待っている姿を見て、微笑ましく感じました。委員が2・3人で1組になり、朝の15分(8:30~8:45)を利用して、1・2年生の教室で、2・3冊の絵本を読みました。当然練習を重ねてきているので読み方が上手で、児童の皆さんは絵本の世界に入り込んでいる様子でした。沖高生は、改めて表現力が豊かだなと感じました。児童だけでなく、先生方にも大変喜ばれて、池田校長先生からは来年もぜひ来てくださいとリクエストをもらいました。

11月7日 第3回台湾との交流 「グローバルクラスルーム」



第1・2回は商業科1年3組との交流でしたが、せっかくの機会なので、3・4回目は、1年普通科の生徒と交流してもらうことになり、第3回は1年1組の生徒がオンラインで台湾の生徒とつながりました。事前の説明があり、画面がつながった瞬間が一番印象的です。どちらにも緊張と恥ずかしさが見えますが、質問のやり取りをする中ですぐに打ち解けていました。第4回は、1年2組の生徒が挑戦することになります。

11月8日 専門教育講演会



5限目に、「沖高教育振興事業」の一環として、商業科の1・2年生に専門教育講演会を実施しました。今年も昨年に引き続き、車椅子トラベラーの三代達也さんにお越しいただき、「車椅子目線から観る島の魅力」と題して、講演をしていただきました。三代さんは18歳でバイク事故に遭い、2年間のリハビリを終え、人生の師匠との偶然の出会いから、生き方が変わったそうです。東京で一人暮らしを始め、23歳でハワイへ一人旅、そして28歳で世界一周の一人旅に出ます。海外では自分が何一つ障害者であることを感じなかった経験から、町と人が変われば、バリアフリーになれると感じたそうです。そこで私達にできることは、気づくことで、周りの困り事に気づくことが、ユニバーサルデザインの推進につながると話しておられました。最後に、「沖永良部はとても居心地がよく、皆さんは、人に優しい純真な心のinfluencerになってください」とメッセージを残されました。